

「第 27 回鉄道総研講演会」を開催しました

平成 26 年 11 月 14 日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、「第 27 回鉄道総研講演会」を下記により開催いたしましたのでお知らせします。

安全は鉄道事業者の事業において、最優先されるべき事項として位置付けられており、科学的な知見に基いて事故やトラブルの発生を防止する不断の努力が続けられています。一方、過去に経験のない著大な地震や豪雨、突風などの発生確率が極めて低い自然災害、あるいはヒューマンエラー等がきっかけで発生する予測困難な事故など、科学的に不確実な要素が多い現象に対しては、想定外の事態が発生しても被害を最小化するための予防安全の対応が要求されます。

そこで、第 27 回となる鉄道総研講演会のテーマは、「鉄道の安全性のさらなる向上を目指して ー予防安全と被害最小化ー」と題して、長岡技術科学大学の三上喜貴教授から特別講演を頂くとともに、予防安全と被害最小化に対する鉄道総研の研究開発の取り組みを技術分野ごとに紹介しました。

なお、今回の講演会には、鉄道事業者をはじめ官公庁、大学、一般企業から 572 名の方々にご聴講頂きました。

記

1. 開催日時：平成 26 年 11 月 12 日(水) 10 時 00 分から 17 時 10 分
2. 開催場所：有楽町朝日ホール（東京都千代田区有楽町）

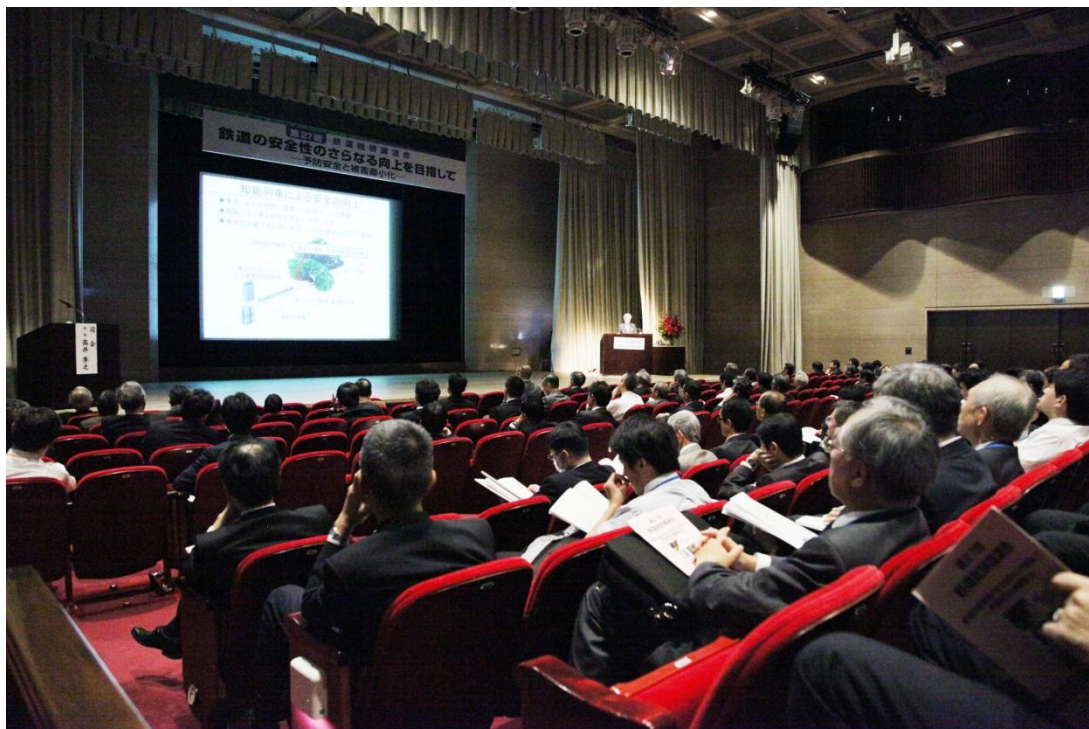


写真 講演の様子

3. プログラムと講演内容

- 開会の挨拶 鉄道総研 会長 正田 英介

- 特別講演「安全マネジメントの歴史に学ぶ」
長岡技術科学大学 教授 三上 喜貴 様
・安全マネジメントの意義とそれが機能するための社会的諸制度のありかた。

- 基調講演「鉄道における予防安全と被害最小化への取組」
鉄道総研 理事 奥村 文直
・安全に関する鉄道の取組、および予防保全と被害最小化に関する研究開発の展望。

- 「安全マネジメントを支援するヒューマンファクター」
鉄道総研 人間科学研究部 安全性解析研究室長 宮地 由芽子
・ヒューマンエラーに起因する事故の調査分析法や安全風土の評価法等について。

- 「脱線させない軌道技術」
鉄道総研 軌道技術研究部長 古川 敦
・脱線事故防止に向けた軌道管理上の要点の紹介と今後の研究開発について。

- 「脱線しにくい車両技術」
鉄道総研 鉄道力学研究部 車両力学研究室長 宮本 岳史
・脱線しにくい台車の開発の現状と今後の展望について。

- 「安全運行を支える信号・情報技術」
鉄道総研 信号・情報技術研究部長 平栗 滋人
・災害時等の鉄道の機能維持や早期復旧に資する運行システムの紹介と今後の展望。

- 「列車衝突時の被害最小化技術」
鉄道総研 車両構造技術研究部長 早勢 剛
・衝突時シミュレーションの紹介と被害最小化を目指す今後の研究開発の展望。

- 「巨大地震に備える耐震・減災技術」
鉄道総研 鉄道地震工学研究センター長 室野 剛隆
・巨大地震に対する耐震技術と想定を越えた地震に対する危機耐性の紹介。

- 閉会の挨拶 鉄道総研 理事長 熊谷 則道



写真 講演会の開会の挨拶を行う 鉄道総研 会長 正田 英介



写真 特別講演「安全マネジメントの歴史に学ぶ」
について講演される 長岡技術科学大学 三上 喜貴 教授

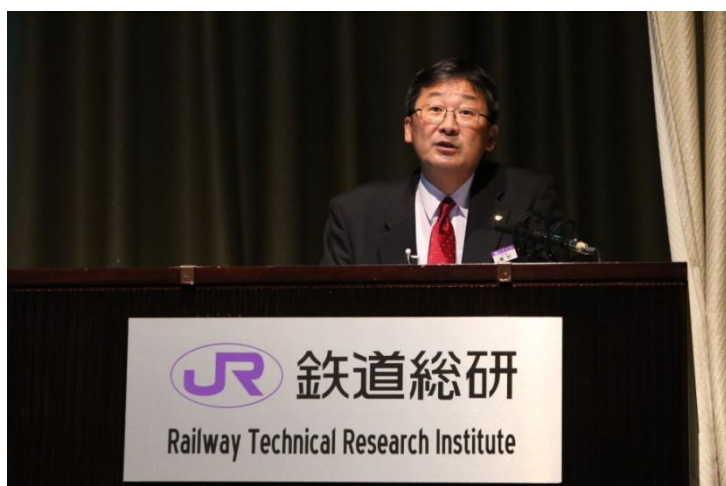


写真 基調講演「鉄道における予防安全と被害最小化への取組」
について講演する 鉄道総研 理事 奥村 文直



写真 講演会の閉会の挨拶を行う
鉄道総研 理事長 熊谷 則道